

「私達は働くことで、生きがいと健康、そして社会参加をめざします」

いるまシルバーだより

社団法人 入間市シルバー人材センター

平成 22 年 11 月 第 77 号



2010年(平成22年) 11月

いるまシルバーだより

No. 77 (16)

シルバー人材センター 入間万燈まつりに参加



夢の会が活躍

ゴミ清掃・万燈行列に参加



みんなで創造した

「設立30周年記念式典・祝賀会」

そして市民の皆様と一緒に楽しんだ

「第3回元気な入間年輪まつり」

生きがいと健康、そして社会参加をめざす事を基

本理念として運営される社団法人です。センター設立30周年の節目の年を迎えるに当たり、先人各位に感謝をささげ、30年の歩みを振り返り、そして未来に向かって更に力強い歩みが出来るようその目標実現のために、会員の持てる力を結集して記念事業を企画・実施することとします。

記念事業の実施内容は、次のとおりとする。

- ① センター設立30周年記念誌を作成する。
- ② センター設立30周年記念式典を行う。
- ③ センター設立30周年を記念し姉妹都市交流を行ふ。

二・記念事業企画に当たつての基本事項

記念事業の実施内容は、次のとおりとする。

設立30周年記念事業は、大綱で目標を決めて計画・実施いたしました。

一・趣旨

(社)入間市シルバー人材センターは、昭和55年4月10日に「入間市高齢者事業団」として発足し、昭和57年4月1日に「(社)入間市シルバー人材センター」として改組し現在に至っています。

今年度が設立30周年を迎えることになります。

この間、先人各位のご努力により、センターの組織、

会員数、売上額等大きく拡大発展を遂げ、県下でも誇れるセンターとなっています。

シルバー人材センターは、働くことを通して、

会員の意見を聞くため、次のとおりとします。

○理事、○職群班班長・副班長、○地域班班長・副班長。

③費用—(ア)式典費・祝賀会費 310万円
(イ)記念誌作成費 315万円 (ウ)アトラクション費 70万円
万円 (オ)表彰費 45万円 (カ)事務費 85万円
以下略

計 1225万円

記念行事は、去る9月18日、19日の2日間、彩の森入間公園多目的広場に設けられた特設会場で開催されました。

この2日間は、残暑厳しい中でしたが晴天に恵まれ、式典では、長谷川理事長の挨拶に続いて感謝状の贈呈、来賓のご祝辞、そして、木下市長様、福島連合区長会長様、長谷川理事長によりくす玉割りが行われ、感謝と祝福の雰囲気に包まれ、素晴らしい式典となりました。

式典のアトラクションとして、佐渡の芸能グループによる①神事芸能「鬼太鼓」②佐渡の民踊「佐渡おけさ」「両津甚句」「相川音頭」が地方の生伴奏と共に披露され、出席者の皆さんが魅了されたものと思います。

祝賀会では、大坂副理事長により関係者への感謝の挨拶と石川入間市環境経済部長様、池佐渡シ

ルバー人材センター副理事長様のご挨拶に続いて、友山市議会議長様、五十嵐衆議院議員様、末吉元名誉会長様、浅見元事務局長様、長谷川理事長により鏡割り、横田懇話会会长様の乾杯の音頭で祝宴が進行され、アトラクションにオカリナ演奏も加わり、30周年の祝賀の会が演出されました。

最後に、奥井理事よりお礼と挨拶、将来へのアピールが行われ、祝賀会はめでたくお開きとなりました。

実行委員の皆様には、大変なご尽力をいただき心から感謝申し上げます。今後の日程になつていいる「記念誌の発行」その他事業についても、引き続きご協力賜りますようお願い申し上げます。

楽しい祭りを創造する!

「第3回元気な入間年輪まつり」は、30年の祝賀事業と位置付け、式典・祝賀会と同時開催の形で展開されました。第1日目は、正午より「子供ひろば」「模擬店」がオープンされ、式典で披露された「佐渡の鬼太鼓」「佐渡おけさ」がまつり会場いっぱいに行われ、会場の皆さんと一緒に楽しみました。また、今回初めての企画で「阿波踊り流し」が行われ、日高市の「かわせみ連」、狭山市の「でんぱ連」「さわやか連」の友情出演をいたしました。当センターの会員で構成する「元気な入間連」





市長ご挨拶

入間市長 木下博様

皆さん、こんにちは。

ご紹介を頂きました入間市長の木下でございます。

今日は、入間市シルバー人材センター創立30周年、誠におめでとうございます。

私も今、この壇上に立たせて頂き感無量のものがあります。

がございます。

昭和55年、入間市高齢者事業団としてスタートした訳ですが、その時から、この事業団と関わり合いをもつてきたものの一人です。おめでたい席で如何かとは思いますが、少し脱線するかもしれませんのがお許し頂きたいと思います。私に言わせますと、何の因果でこの組織と関わり合いをもつたものかと言う思いを致しております。昔から良きにつけ悪しきにつけ、内輪揉めの多い団体で、

その都度、私のところに、どうしたらいいのかと。仲介人というものは、どちらの側に立つても悪口を言われる役で、当時の役員の皆さんと激論を交わす中で、なんとかこのシルバーが、これからも高齢社会のリーダーとしてご活躍を頂きたい、その一念で今日まで関わりを持たせて頂いた訳であります。

しかし、このシルバー人材センターの存在は、多くの高齢者の皆さんにとって希望の星でもある

『組織』というものは、大きくなればなるほど役職を求める人が多くなる。従つて、組織運営が厳しくなる。』こういうことを、百年以上も前に看破しており、まさに今、シルバー人材センターも多くの会員を要し、その運営に苦労をなされているというふうに思っています。

長谷川理事長をはじめ、役員の皆様方が、今、献身的に努力をされておりますが、時代が大きく

変化をする中で、そのご苦労は大変なものがあるうと思う訳であります。

どうか会員の皆様方、「自分達の問題である」「自分達のシルバーである」という考えをもつて互いに語らい、そして、このシルバーの将来を確固たるものにして頂きたいと、心から願うものであります。

私は、30周年がこのようなりっぱな形で催されこの実行力に対し心から敬意を表します。

どうぞこれから多くの会員の理解を得る中でこのシルバーが発展することを心から祈りたいと思います。

いろいろな所に依存するということではなく、自らの力によって業務を開拓してきた努力を、これからも更に発展させ、入間市シルバー人材センターが県下に、また、全国に名だたるセンターになられますことを、心からご祈念を申し上げる次第でございます。

それでは重ねて長谷川理事長を始め役員の皆様方、会員の皆様方のお骨折に心から敬意と感謝を申し上げ、シルバー人材センターのご発展をお祈りしてご挨拶と致します。

今日は、大変おめでとうございます。



そこで重ねて長谷川理事長を始め役員の皆様方、会員の皆様方のお骨折に心から敬意と感謝を申し上げ、シルバー人材センターのご発展をお祈りしてご挨拶と致します。

今日は、大変おめでとうございます。



ます。

ただ一つ言えることは、とにかく、がむしゃらに頑張られたということであります。就業先開拓等でも、本当に積極的に取り組まれ、当時、他の事業団では取り組まなかつたような事に対しても、その活躍ぶりは、評価に値するというふうに思っております。

そして、その伝統が今日まで引き継がれ、今は多くの企業の皆さんに愛されながら、このシルバー人材センターがご活躍されていることは、私にとっては、大変嬉しいことであります。

パーキンソンというイギリスの思想家がこんなことを理論として述べています。



